全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第21号（平成20年２月）号）

雪帽子　寒いとうなく　椿かな

私塾ネット　副理事長　梶原　賢治

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野　十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿 55-8-205　ナカジュク内
TEL 03-3963-5572　FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理 事 長　谷村　志厚
TEL047-368-2729
広報部長　監物　一男
TEL048-688-6903

「四国塾長会議」in 高知
私塾ネット四国　秋の研修会

私塾ネット四国代表　湯口兼司（湯口塾）

平成19年10月28日（日）ホテル日航高知　旭ロイヤルに於きまして20年ぶりの『四国塾長会議』が参加者41名で盛会のうちに開催されました。関東からは谷村志厚理事長はじめセンター研修部長の田中宏道氏、前々から『四国に行きたい！』と言って頂いていた日米文化学院の武村浩靖氏、私塾ネット中国からは私塾ネット四国の『育ての親』であり一番の理解者であられる山口恭弘会長、いつも的確な指導をしていただき四国の仲間の目標でもある広島若竹塾の佐藤将樹氏、ご子息が高知大学に通われているあさひ塾の田中達朗氏が応援に駆けつけていただきました。また企業からは教育開発出版本社より藤本孝士氏、四国営業所長塩崎富和氏、10月に代表取締役に就任したばかりの（株）SRJ堀川直人氏と長崎周造氏が研修発表も兼ねて参加していただきました。

研修会場風景、塾長他41名が一同に会した（ホテル日航高知）

そもそも私がこの『四国塾長会議』なるものを思いついたのは一昨年の楠山敬志氏が実行委員長として徳島で開催した、全国学習塾協会主催の『塾の日in鳴門』の時でした。そのときは全国からたくさんの仲間が四国に結集し、もちろん四国のそれぞれの任意団体からも応援参加していただきました。その中に高知『くろしお進学会』代表の岡田正隆氏も出席しておられました。私塾ネット四国は現在17塾が加盟していますが全て愛媛、香川、徳島の塾で高知の塾長との交流はほとんどありませんでした。岡田先生と親交のある楠山さんに仲介の労をお願いして今回の研修会の開催となりました。さて実際には開催場所が高知ということもあり、会場設定から価格交渉までほとんど岡田先生にお世話になりっぱなしで、お陰で私は企画のほうに専念できました。ただその過程の中でくろしお進学会のメンバーの素晴らしさ、岡田先生の誠実かつ責任感の強さ、何故くろしおの会員の方たちが岡田先生を中心に強くまとまっているかを垣間見ることが出来ました。本当にありがとうございました。

本音で語る自塾の問題点と展望

10月28日午後1時より研修会Ⅰ『各塾の問題点と将来展望』が始まりました。この部分では参加塾の自己紹介と自塾の問題点、これからの展望を全員にお話をして頂きました。会場のテーブル設定も全員の顔が見えるように配置しました。私が特に印象に残ったのは旧十和村人口3000人ほどの町で塾を開いている中平先生でした。地元の中学生全員で37名しかいないのにそのほとんどと言っていいぐらいの30名近くが通っているそうです。これぞまさしく地元密着型の塾ですね。また個別授業を開設したい、高校部を創めたいなどの声があり実際にやっておられる塾長からの様々なアドバイスを頂きました。高知からは8名の先生方が参加していただき一人ひとりが個性豊かで且つ人間味あふれる優しい塾長ばかりでした。また愛媛県からは愛塾連（愛媛学習塾連盟）の先生方、梶岡務会長はじめ前会長岩田良一氏など6名の参加を頂きました。2008年に15周年の記念式典を開催されるそうで、以前に私塾ネット四国とジョイントの研修会を松山、道後で催したこともあります友好団体です。今年も仲間と一緒にお祝いに駆けつけようと考えています。

研修会Ⅱ部は『STAGEUPのために』と銘うって10名の方々に発表していただきました。

発表者及びテーマは全て私が一方的に決めてお願いしたにもかかわらず、皆さん快く引き受けていただきました。実は全て私が『お聞きしたいなー』と前々から思っていたことばかりで、ここでは発表者のお名前とテーマだけ紹介させていただきます。

寺嶋謙次氏（学習院セミナー）「衛星予備校の運営方法について」、小野昭氏（小野塾）「ユニークな塾運営、30代塾長の発想」、佐々木智英氏（愛真塾）「名門塾二代目の苦労」、田中宏道氏（LAPIS鎌ヶ谷）「マイナスからのスタート」、湯口兼司（湯口塾

研修会の進行を務める湯口代表。左は田中、十亀先生。

）「二教室で高校生560名（高校部開設の方法）」、谷村志厚氏（AIM学習セミナー）「個別指導教室の開設について」、辻慶太氏（慶太塾）「『いごっそう』と『はちきん』の塾」、楠山敬志氏（楠山ゼミナール）「全国学習塾協会のこれから」、以上学習塾関係、メーカーからは塩崎富和氏、藤本孝士氏（株教育開発出版）「教材メーカーから見た四国の学習塾」、堀川直人氏（株SRJ）「全国の学習塾をまわって」、時間の関係でお一人持ち時間が１０分と大変短く話しにくかったとは思いますが、それぞれに簡潔かつ意義ある話しをしていただきました。本当は最低でも一時間は差し上げたかったのですが私の欲張った考えで皆さんにご迷惑をかけてしまいました。それでも中身の濃い充実した二時間だったと自負しています。そして最後にこれまでお世話になりっぱなしだった山口会長と谷村理事長に記念品を贈呈して第一部を終えました。

高知の夜長を飲みかつ語り明かす

第二部は四国の宴会部長の川原光明氏総指揮の下、高知の名物皿鉢料理に舌鼓をうち飲み明かしました。流石に高知の先生方は強いー。引き続き第三部、語り明かそうROOM1920号室にては（私は最初から最後まで番人をしていました、）最初岡田先生始め高知の先生方、二部終了後すぐ二次会に走った愛媛の先生方も次々と訪れて、通しでみんなの相手をしてくれた山口、谷村、佐藤先生のお話など、じっくりとお聞きすることが出来ました。また個人的なことで申し訳ないのですが、一緒に連れて行っていた湯口塾の職員たちは田中先生、武村先生を囲んで、ベットの上でお二人の塾への情熱に接し感動することしきり、帰ってからもそれを念頭においた仕事ぶり、私にとって本当にありがたい職員研修でした。またその晩、私の弟分でありますが、最近は師匠でもある『四国の雄』原田真一氏（啓真館）から助言を貰い今春からそれを実行したいと準備を進めています。いつものことですがやはり本当の研修は夜ですね。佐藤将樹先生の鋭い言葉はずーっと後まで残ります。みなさん、本当にありがとうございました。そして今回はスケジュールの関係で関東エリアと徳島の先生方に大変ご迷惑をおかけしました。次回は是非よろしくお願いいたします。

最後にくろしお進学会の副会長辻慶太氏がその会を紹介した「『いごっそう』と『はちきん』の塾』」のお話を伺い、会員相互の結束の強さとやさしさに感動しました。是非また一緒に研修会が開けたらと思っています。四国は一つ！

高知の夜には酒席がよく似合う、まずは乾杯！

元気をいただいた高知の先生方に感謝

１０月２８日，南国高知らしく，穏やかな秋晴れの日に，「四国塾長会議」が開催され，多くの塾長先生にお会いすることができました。一部の各塾長先生の自己紹介，その後の「今後の塾業界」を支えていく先生方のお話には感激いたしました。２０代の若き塾長から？十代の心若き塾長先生たち…，皆さん，生徒を思う熱き心，塾業界の未来を思う心は同じなんだな～と感動した次第です。

２部の懇親会では，高知くろしお会の先生方とテーブルをご一緒させていただき，「かつおのたたき」に舌鼓しながら，気さくに話しかけていただきました。生徒数の減少の悩みとか，地域間のお月謝の格差とか，いろいろお酒とともに，話題が広がっていきました。いつも，一人で悶々と自塾について悩んでいる私ですが，広大な太平洋の水平線が目の前に広がってきたような…元気をいっぱいいただきました。高知の先生方，本当にありがとうございました。

また，懇親会では，「土佐式のお酒の飲み方」を伝授していただき，「香川の元気な宴会部長」（命名していただき，ありがとうございます。），今後の宴会で参考にさせていたこうと思っております。

これから，新規塾生募集，高校入試と，塾長先生が他の長後多忙な時期を迎えますが，皆様お体を大切にして，乗り切ってください。

エイブル代表　田村純子

新たな出会い･塾の輪の広がりに感動

各塾の先生方のお話をうかがうことができて、非常に有意義な一日を過ごさせて頂きました。皆さん、教育者として、人事管理者として、経理、営業マンとして、多岐にわたる気遣いをされ、ご苦労されていることがあらためてわかりました。ああ、私だけではないのだなあと思うことができ感謝の限りでございます。様々な課題に果敢に取り組んでおられる先生方の姿には、オーラがあり、よい刺激をあたえていただきました。また、今回は、高知の先生方との新たな出会いがあり、塾の輪が広がり嬉しいかぎりです。おかげで、めちゃめちゃ美味しいカツオのタタキをいただくことができました･･･。今回の研修会を企画準備なさってくださった先生方、ほんとうにありがとうございました、そしてお疲れ様でした。

小野塾代表　小野　昭

New Year Party in Odaiba

２００８年１月27日（日）　於　お台場（カフェ　ラ・ボエム）

総合司会の筆者　　右端　渡邊　浩先生

私塾ネット関東総務部長　渡辺　浩

「大盛況！！」そんな言葉がぴったりに終わった第３回私塾ネット関東「ＮＥＷ　ＹＥＡＲ　ＰＡＲＴＹ」が、恒例となりましたお台場ＣＡＦＥ『ＬＡＢＯＨＥＭＥ』（カフェ　ラ・ボエム）にて行われました。参加人数は大人４８名、小中学生８名、幼児４名の合計６０名、お蔭様で一昨年、昨年よりも人数が増えた形となりました。昨年は私事で大変申し訳なかったのですが、息子が病気を患い、止むを得ず欠席をさせていただきましたが、今年は息子の病気も回復し、ジィジ、バァバも連れて一家総出で参加をさせていただきました。そして、新入会員も２名（修学舎　玉城邦夫先生、パロス個別指導学院宮脇伸夫先生）ご参加頂き、文字通り大盛況となりました。さらに私塾ネットの会員ではないのですが、以前から親交のある参議院議員の大島九州男先生にもお越しいただきました。

新年のご挨拶をなさいます参議院議員大島先生

まずは関東代表鈴木先生からのご挨拶、「私塾ネットは家族を大事にする会」というお言葉、本当にありがたいです。次に、、、この場をお借りいたしまして改めてお詫び申し上げます。というのは、、、

乾杯の音頭をとるほ渡辺公雄先生

乾杯の挨拶。私の父である渡辺公雄が乾杯のご発声をたまわったのですが、、、これが長い。日頃から「乾杯の挨拶はできるだけ短く」といっていたにもかかわらず、最近話題になっている杉並区の和田中学を話に挙げて教育について熱く語ってしまいました。途中グラスを無理やり渡し、話の腰を折るようでしたがようやく乾杯の運びとなりました。食事はイタリアンなので、パスタ、ピザ、ポテト、サラダとデザート。少し量が足りなかったかなぁと思いながらもおいしい料理とすばらしい景色にひとまずご歓談、

得意の分野のクイズの司会をする谷村理事長

その後最初の催しとして、谷村理事長作による「クイズ　スルーオアセレクト」が行われました。このゲームは、テレビでやっていた企画と同じものを理事長自らパワーポイントで作りました。どういうものかというと、まず問題が出されます。その後４択の答えを選ぶのですが、１番の答えから順に右から左へと流れていき、その答えだと思ったときには「セレクト！」といい、違うなと思ったらスルーして次の答えを見ることができるのですが、一度スルーしてしまった答えはセレクトすることが出来ないのです。ですから、次かな？次かな？と思っているうちに自動的に４番の答えをセレクトしてしまう事になるわけです。挑戦したのは宮脇家、仲野家、宝田家、木谷家の４家族。我が家は残念ながらじゃんけんで負けてしまい、挑戦できませんでした。結果、１位は宝田家でポータブルＤＶＤプレーヤーと銃のおもちゃをＧＥＴしました。２位は仲野家で掃除機とＣＤケースをＧＥＴしました。いやぁ、さすが旧日私会！こういう時は強いですね！

宝田先生の家族の前でマジックを披露するマジシャン

続いてのイベントは生マジックショー。プロのマジシャンをお呼びしてテーブルごとにマジックを披露していただきました。これがまたすごい！本物を見たことがある方はご存知だとは思いますが、私は生で見るのは初めてだったので、開いた口がふさがりませんでした。というのも、１本の紐が２本になったり、また１本になったり、カードマジックでは好きなマークと数字を言っただけで、そのカードだけが裏返しになっていたりと、とにかく目を見張るとはまさにこのことでした。ちなみに好きなマークと数字を言ったのは大住先生ご夫妻ですが、あらかじめ打ち合わせは無かったそうです。（当たり前ですね）そして、最後にビンゴ大会が行われました。ビンゴと言えば名司会の谷村理事長ですが、風邪気味でのどが痛いということなので、宇宙先生のご子息である宇宙聡君にやっていただきました。彼には今回の会の景品を買ってきてもらったり、事前準備等すべてをやっていただいたりしました。改めて感謝します。ありがとうございました。さて、ビンゴゲームですが、１位は新入会員の宮脇先生が液晶ＴＶを持っていきました。さらに、２等のＤＶＤプレーヤーもなんと宮脇先生のご家族に当たり、おいしい所を全部持ってかれてしまいました。おめでとうございます。また来年も是非参加してくださいね！なんだかんだであっという間の２時間が経ち、最後に仲野センター事務局長がサプライズで「私塾ネットの歴史」というＤＶＤをご自身でお作りになり、それをスクリーンで流しました。「歴史を変えたお２人」で山口前理事長と谷村理事長の２ショット。数々の研修会や旅行のスナップ写真、どれも懐かしいものでした。また、お決まりの鈴木関東代表のフォト集、これには笑わせていただきました。それで、最後に「昨年一番頑張った家族」ということで、一枚の写真が映されました。その写真とは、お正月に仲野先生のご自宅にうかがった時の写真で、元気なわが子と妻と私が映っていました。ご存知の方もいらっしゃるとは思いますが、昨年私の息子がネフローゼという腎臓の病気にかかり、その後一時腎不全まで引き起こし、５ヶ月ほど入院しておりました。その間も仲野先生を始め、私塾ネットの諸先生方からは会うたびに励ましのお言葉を頂き、何とか息子も回復いたしました。その時の思いが、写真を見た途端胸の奥からこみ上げ、思わず涙ぐんでしまいました。ニューイヤーパーティーもそうですが、本当にこの会にいられることはありがたいと感じました。その後２次会でも盛り上がり、理事長、

ビンゴの司会を名調子でする宇宙　聡先生

東京の夜景を代表するお台場のベイブリッジ

塾教育総合展　主催：全国学習塾協同組合

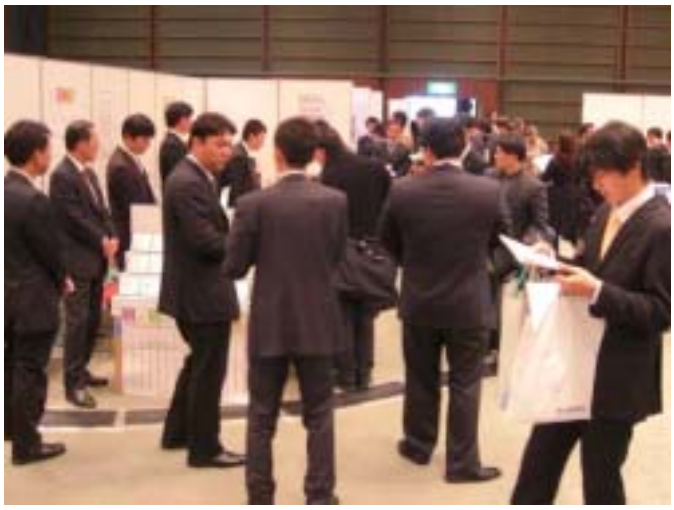
０８年１月１４日（祝）　於　東京国際フォーラム　Ｂ棟７階ホール

開会の辞を述べるＡＪＣ森理事長と柴田先生

報告　　エリア関東　代表　鈴木　正之

今年が実質第１回となる「塾教育総合展」。前年までは新宿ＮＳビルで「塾に役立つ情報展」が開催されていたが、今年から全国学習塾協同組合単独主催で催された。会場は有楽町の東京国際フォーラム。会場が駅から近いことは嬉しい限り。

全国学習塾協同組合が運営するパロス個別指導システムへ、私塾ネット関東の会員の多くが加盟していること、組合の理事を会員６名が務めていることもあり、私塾ネット会員の多くが実行委員として協力した。（ちなみに、全国学習塾協同組合、玉城専務理事も今年１月に私塾ネットに入会）



会場を熱心に見て回る参加塾の先生方

午前９時、Ｂ棟７階に上がると広い会場はまだ何もない状態。実行委員の先生方や設営業者が１１時の開会に向けてあわただしく動き回っていた。今までのＮＳビルと今回の東京国際フォーラムでは、駅から近いことと広くなったことは良かったのだが、さすがに初めての会場ということもあり運営側の苦労は大変なものだった。出展企業集めから動員、そして段取り。当日の段取りは勝手が分からず事前の準備段階で念には念を入れ、かなり準備のために人手を集めた。今回、総合展が開催できたのは、森理事長、玉城専務理事、芝田実行委員長のご努力はもちろん、事務局職員のお陰である。心から感謝したい。

又、この総合展では、私塾ネットも１企業と同様に１ブース確保して参加した。私塾ネットのブースでは、私塾ネットへの勧誘を目的に、私塾ネットの活動の紹介と全国研修へのお誘いをした。情報提供と情報の交換、研修と懇親を中心に行い、互いに協力し伸ばし合う団体であることをお話しした。その結果、当日行われた「私塾ネット関東研修会」に、ブースで話を交わした方が数名参加された。他にも興味を示してくれた先生方もたくさんいらっしゃった。５０名以上の方々に広報、案内等をお渡しできたことは想定外であった。多くの方に私塾ネットの活動を知っていただくこと、そして会員が増え、その会員の方々と互いを高め合う活動が出来ることは大変有意義である。塾教育総合展へ私塾ネットのブース参加は、来年以降も継続することを願う。

来場者は、昨年の「情報展」と比較して増加。ミニセミナー会場も常に２０人から３０人が入り盛況だった。出展業者からの話でも「昨年より良い」、「来年も是非出展したい」という声がほとんどだ。全国学習塾協同組合でも、パロス個別指導システムのブースや個別指導の教材のコーナーを設けたりした。組合の理事であり、映画ミッドナイトイーグルの原作者の高嶋哲夫先生のサイン会も行われた。恒例の福引きも好評であり、来年はさらに多くの方にご来場いただきたい。出展企業も興味深いところも沢山あり、全部見ることが出来なかったことが残念であった。（出展企業については全国学習塾協同組合のホームページで見ることが出来ます。）

「塾教育総合展」大成功！全国学習塾協同組合関係者の皆様、お手伝いされた実行委員の皆様、ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。

エリア関東新春研修会

エリア関東の先生の前で講演をする筆者

「私塾ネット関東新春研修」　東京国際フォーラムＢ棟６階６１１会議室
第一部　学習塾の風水「人が集まる塾舎とは」
菅谷　友豊香
第二部　碇の数学：図形編「三平方の定理と相似」
碇　優
昨年から、この日（総合展・学習塾団体合同新年会）に合わせて研修会を開催し始めた。会場は全国学習塾協同組合のご厚意で提供していただいている。私塾ネットの会員が講師となって開かれる研修会。今年も色々なモノを持っている先生方から話をお聞きしていきたいものだ。

「人が集まる塾舎とは」　勝ち残れる塾へ！(1)
エリア関東企画部　部長　菅谷友豊香

自塾だけは勝ち残りたい、いつまでも保護者や生徒に支持されていたい、塾経営者ならば当然です。しかし経営上の問題点を聞くと、生徒数や月謝売り上げを第一に挙げられるのに対し、その日一番に考えることは授業だけになっている方が殆どです。授業第一が悪いという訳ではありません。塾として看板を掲げる以上、商品は授業ですから。しかし、追われる日々の作業を言い訳に、抱えている問題の本髄に触れようとしない人が意外に多いのも事実です。現況に目を背けてはいけません。そこに大きな落とし穴があるのですから。私達は何かを購入する時、最初は口コミやマスコミの情報に頼ります。が、どんな素晴らしい情報を得て、素適な商品でも、いざ行ってみると清掃が行き届かない雑然とした店で、購買意欲が大きく半減したという経験はありませんか。　又どんなに整備されている店でもサービスを受けてみなければ安心して購入することはできません。つまり購買意欲は、単に価格だけでなく店に足を踏み入れた時の印象に大きく左右され、商品よりもサービスで購入を決定していると いっても過言ではないのです。教室も同様、ターゲットにした客層にいいなと思われるサービスを与えることが大切です。私の実家は一番浮き沈みの激しい衣料店で母は呉服を扱っており、私は中学生の時から店に立ち販売を手伝っていました。よって品質とサービスを見る目は人一倍厳しいと思います。同時に女性であることも誘引しています。女性は商品のみでなく、あらゆることを事細かにチェックします。塾を始めた頃は自分が女性であることにマイナスばかり目につきました。今ではそれが功を奏しています。何故なら塾が相手する一番のお客様は、塾生でなく母親ですから。女性の厳しい目で、他店も、自塾もチェックする。ラーメン店を例にあげてみましょう。テーブルが油まみれ、新聞が散らかり乱れた店内、汚れたトイレ、呼んでも来ない店員、提供が鈍くのびてしまった麺、このような店に足繁く通うでしょうか。取りあえず安く食べられればいいと言われる方もいるでしょう。では、継続的に通う飲食店、喫茶店、理・美容院、エステ、病院等ならどうでしょうか。どのような所なら安心して通い続けられるでしょうか。塾のように継続的に毎月数万円を支出する場合は?　更に高価な自動車や家となると、商品だけでなく営業マンの対応とショップの雰囲気で購入していますね。是非これらを参考にして欲しいのです。間違って欲しくないのですが、高級でなければ駄目な訳ではありません。要は、学習塾が教育サービス業であることを心得ているかどうかです。塾長の誰もが異口同音に自塾は面倒見の良い塾であると言われますが、では面倒見の良い塾が何故次々に淘汰されてしまうのでしょうか。本当の面倒見の良さとは、生徒が欲することをしてあげること、道を知っている者として大切さを唱え、提案し導くこと。医療でいえば、インフォームドコンセント。聞いてみると、塾生にとって面倒見が良いかどうか疑問を抱く場合も少なくありません。自己満足でしかない面倒見の良さ、塾が消えていく原因はここにあります。塾と似た業種で今頑張っているなと感じるのは私立学校です。思った以上に私学は改革が盛んで、図書館や自習室の整備、ゆとりある美空間、最新機器の導入、受験対策、教職員研修と非常に前向きに取り組まれています。昨秋の私塾ネット私学情報交換会でも校長先生方は自学を売るのに必死でした。対し塾は未だ何も改革されていないのが現状です。他業界では生き残る為に必死に行っている当然の事をせずに、見過ごしてはいませんか。私学と同様に費用がかかることをやれというのではありません。常連客となる母親の目を意識した塾舎づくり（外・内観、清掃、整理整頓、分かり易い説明とさわやかで真心ある応対）をして欲しい、それが私から今年最初のご提案です。

次号へつづく

『2007年小中学生のための県立･私立高校進学情報展in八戸』

主催:全国学習塾協会　後援:全日本私塾教育ネットワーク

会　場　ヴィアノヴァ5階特設会場 (八戸市十三日町)

日　時　平成19年12月2日(日)　13:00～16:30

私塾ネット東北代表　畑山篤(志学塾)

人口２５万人、新産業都市、三陸リアス式海岸の起点…最近はせんべい汁や屋台村でもお馴染みのここ八戸市で塾を始めて２０年目になります。今年も元旦から恒例の「中３正月特訓」で始まりました。

ところが、今年の中３生はどうなってしまったのか？「ゆとり教育にどっぷり浸かって育てられ、無気力と闘い、もがいている」子どもがこの数年を見ても、大変多いのではと感じられます。私の教室に寄せられる子ども達からの相談内容も「高校に入りたいと言ってもまだまだ本気になれません。どうすればいいですか。（Ｓ中女子）」「内心どーにかなるべ！と思っている。どーやったら危機感持てますか？（Ｓ中男子）」「燃えるものが見つかりません。（Ｉ中男子）」等々。皆さんの地域は如何でしょうか？

このような状況の中、昨年１２月に標記イベントを（社）全国学習塾協会の主催、私塾ネットの後援で開催いたしました。小中学生と保護者を対象に、「私立中高進学説明会（個別ブース）」、「三者面談直前学習相談会（個別ブース）」、「本年度県立高校入試説明会（一斉説明）」を行いました。そして自転車やiPod shuffleがあたる「スタンプラリー大抽選会」や「ジュニア英語体験学習会」などのお楽しみ企画もあり、入場者数は２０３名という小さなイベントでしたが、手作り感が良いのか概ね好評でした。

参加校は、市内の私立高校や、函館ラ・サール中学・高校（北海道）、日本航空高校（山梨県）など９校。それに北海道から近畿まで全国各地の学習塾の先生方、さらには塾関連の行政や業者の方々まで師走のお忙しい時季にもかかわらず総勢３０名余りの方々にお集まり頂きました。心より感謝申し上げます。二次会１９名、三次会１８名…四次会、五次会と時を忘れ、寒さを忘れ、出会いとおしゃべりが中心の楽しい一時となりました。誠にありがとうございました。

私立の先生の説明に熱心に聞き入る受験生

関連の行政や業者の方々まで師走のお忙しい時季にもかかわらず総勢３０名余りの方々にお集まり頂きました。心より感謝申し上げます。二次会１９名、三次会１８名…四次会、五次会と時を忘れ、寒さを忘れ、出会いとおしゃべりが中心の楽しい一時となりました。誠にありがとうございました。

畑山代表自ら進学説明に熱弁をふるう。(上)
聞き入る生徒たちの真剣な表情が印象的だ。(下)

開会の挨拶に立たれた碇先生

塾団体合同忘年会･新年会

報告　エリア関東　代表　鈴木　正之

「塾団体合同忘年会」２００７年１２月２日（日）
ホテルグランドパレス
主催：東京私塾協同組合

塾団体の代表者紹介での鈴木関東代表と他の代表者

２００７年を締めくくる学習塾合同忘年会、九段のホテルグランドパレスで行われました。約２００名ほどの出席者の半数以上は私立中学高等学校の先生方です。印象的だったのは東京私塾協同組合の岡田理事長が、来賓挨拶から私学の紹介まで壇上に目を向けていたこと、背を向けることなく最後まで立って聞かれていた姿が脳裏に焼き付いています。当たり前なのかもしれませんが、なかなか出来ることでは有りません。

忘年会が大成功に終わりホット笑顔の東京私塾協同組合の役員の先生方と私塾ネットの先生方
後ろ左から２番目　主催者の岡田理事長先生

新年会でご挨拶を賜る近藤会長

「学習塾合同新年会」２００８年１月１４日（祝）
アルカディア市ヶ谷
主催：ＮＰＯ塾全協
「塾教育総合展」、「私塾ネット関東研修会」終了後、市ヶ谷へ。新年会は塾全協のしいただ会長の挨拶から始まりました。衆議院議員の下村博文先生、参議院議員の大島九州男先生、東京私学協会の近藤先生のご挨拶と続きます。忘年会同様、私学の先生方が学習塾関係者より圧倒的に多い中、我々私塾ネットのメンバーは１４名参加。そこへ突然現れたのが和泉元彌さん。いつの間にか撮影会が始まってしまいました。

新年会での私学の先生方の紹介

ネット全国研修大会2008　予告

日時：平成20年４月27日（日）14:00～（予定）
場　所　：　アルカディア市ヶ谷

第一部　①元気塾ノウハウ公開
②　講演：バイマーヤンジン氏
第二部　「私塾・私学・教育企業懇親会」

２次会　いざ西麻布へ

講演中のバイマーヤンジンさん

講演者：バイマーヤンジンさんのご紹介
チベット,アムド地方出身。名前はチベット語ではベマヤンジェン、「ハスの花にのった音楽の神様」の意味。
厳しいチベットの大自然に育まれた力強い歌唱力とそのみずみずしい感性で何千倍という競争に勝ち残り、中国国立四川音楽大学に入学する。
大学では西洋オペラを専攻。卒業後同大学専任講師として教壇に立つ傍ら、中国各地で数多くのコンサートに出演。
1994年来日後、日本でただひとりのチベット人歌手として、チベットの音楽、文化、習慣など紹介するため全国的にコンサート活動を行なう。
1999年夏にはアメリカのアーカディ音楽祭に出場、ニューヨーク国連本部コンサ-ト公演も果たす。同年NHKのドキュメンタリー番組でも取り上げられる。
ユーモアたっぷりの語り口で、日本とチベットの文化の違い、家族のあり方などを論じる講演も多くの人々の感動と共感を呼び、教育関係、企業、学校等からも高い評価を得、テレビ、ラジオで度々紹介される。

（ヤンジンさんの講演より）
私が、チベットから日本に来たのは１２年前です。
不勉強で申し訳ないのですが、最初は日本という国をほとんど知りませんでした。「おしん」のイメージしかなく、苦労が多い国だろうなあと、想像していました。ところが、日本に来てみるとあまりにも発展していて、豊な国でびっくりしました。まず感じたのは、日本の交通の便利さ。私の町では、１番都会の街まで、バスで２日間かかります。でも、日本には、地下鉄、電車、飛行機、モノレールなどがあって本当に感動しました。スーパーには食べ物がたくさんあり、家の中には家電製品。私は天国に来たみたいと、夫に感謝したものです。
でも、しばらくすると、日本の良いところを見るたびに親や家族のことを思い出して、罪悪感に苛まれるようになりました。私一人だけこんなに幸せになっていいのだろうかと悩みました。そして思ったのです。きっと私には何か役割を与えられているのだと。
〈中略〉
日本という良い国にめぐり逢えたことでここまで目が覚めました。だから日本には本当に感謝しています。

（感想）
昨年１０月、（社）全国学習塾協会主催の「塾の日記念式典」の基調講演で、バイマーヤンジンさんと初めて出会いました。民族衣装を着ていなければ、日本人のように見えるのですが、それだけに御苦労も多かったと思います。「豊かさ」に麻痺をしている我々日本人へのメッセージを、母国チベットの文化や生活を紹介しながら伝えてくれます。おそらくそこに参加していた誰もが、「自分の知っている人に聞かせたい」と思ったのではないでしょうか？
参加していた男子中学生が最後に立ちあがって拍手をしていたのが印象的でした。「まだまだこの国、捨てたものじゃないぞ」って感じです。
さて、今回は一味違った２次会の場所を設定いたしました。場所は西麻布にある小さなライブハウス。元ピンキーとキラーズ（ぎりぎり私の代までは知っています）のリードギターリスト、エンディ山口さんが経営するお店で、懐かしい歌をお店の専属の歌姫たちと、生演奏で聴かせてくれます。３０名限定（地方会員の方優先、申し込み順）で受付をさせていただきますので、ご興味のある方はお早めに…。

エリア通信

エリア中国　代表　北川　健治

１月１０日（木曜日）私塾ネット中国の定例会が、広島市内のホテルニューヒロデンで行われました。冬期講習会の激闘の後でしたが、元気に集いました。参加者は北川、山口恭、城、山口哲、上原、荒銭、佐藤、河浜、田中達、林、西本の１１名。先ず始めに、１１月に行われました塾長研修会の報告が城先生から披露されました。任意団体の塾長研修の極意は「惜しみなく自分の抱えている塾の経営情報を相手と共有することによって、情報に付加価値をつけていく。他塾の状況を見て、聞いて、自分の塾の将来を考える。塾長が成長しなければ塾は成長しない。」ということだと思います。昨年は私塾ネット中国「塾を斬る」シリーズ改め、「塾を語る」シリーズ第１弾として、私塾ネット中国の至宝、芸城学院グループの城先生、加納先生のご好意で芸城学院グループを公開していただきました。参加者は、現地に足を運んで、芸城学院を自分の目で確かめて、話を聞いて、来年の自塾の経営に何か取り入れることを目標とした研修会でありました。続いて、１２月の終盤から開催されたばかりの冬期講習会の各塾ごとの総括が、行われ、経営情報の共有、交換がなされました。冬期講習会の生徒募集の状況、残留継続についての工夫などの実践事例の紹介がなされました。おおむね、例年と大差がない状況でしたが、広島の元気印、田中学習会は、今年も大きく前進。今、話題の四谷大塚の取り組みなど、活力ある取り組みが紹介されました。次に各地域の学校情報の交換がなされました。広島県東部地区、福山周辺の私学は軒並み、１月４日、５日といった日程で中学受験が開催されました。私学の受験者数は軒並みダウン。ひとり県境を飛び越え、岡山の金光学園が受験者数を伸ばしました。詳細は継続追跡中ですが、公立の中高一貫中学の人気の影響があるのではという推測が成り立ちます。また、広島西部地区、広島周辺の私学は１月下旬に入試が行われますが、大きな変化はないようですが、あえて言えば、校名変更とともに用意着々、数年、打ち出しの大きく変わったなぎさ公園中学は受験者数が大きく増加しそうだということが紹介されました。また、公立高校の入学のしやすさと、入学後の学業不振に大きな学校間格差があること、小学校の高学年の授業の格差がそのまま中学へ持ち込まれている現況などが各地域からあいついで紹介されました。その後、昼食をはさんで、受験戦線に健康第一を心がけてともに頑張ることを合言葉に散会いたしました。本年も元気一杯、私塾ネット中国です。全国の皆様、今年もよろしくお願いいたします。

エリア中部　代表　松本　紀行

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。皆様におかれましては、冬期講習も一段落し、受験指導に追われていることと存じます。講習会のことで、最近特に感じていることが2点ありまして、１つには、講習費の値下げ競争が激しくなっております。他県から参入したＴ大進学会、Ｍ義塾、Ｋゼミの無料値下げ戦略が地元塾の値下げ競争に拍車をかけております。もう１つは、当地方でも講習期間が長期化しております。冬期講習を2ヶ月にわたって実施する塾も出現致しました。地元塾側の対応が急務となります。

話は変わりますが、皆様、経営革新事業資金というものをご存知でしょうか？今後の塾経営にかなり有利に活用できる資金だと考えられますので、恐縮ですが、この紙面をお借りしまして、概略を少々ご紹介させて頂きます。年利２％、１３年返済、結構沢山借りられます。これと類似したものが、国や県等で実施されておりますが、何か違う印象を受けております。一定の条件のもと、資金がなくてもＯＫというのが大きな魅力です。ポイントは内容でして、「何をしたいの？」というところで、今やっている事業を更に拡張させる内容を計画し、県の許可を受ければ良いことになります。計画を確認するヒアリングがありますが、知恵と工夫があれば担保なしでＯＫも可能だというのがうれしい利点ではないでしょうか。

エリア関東　代表　鈴木　正之

２００８年を迎えて

私塾ネット関東の２００８年は１月１４日の研修会から始まった。その日は「塾教育総合展」と「学習塾合同新年会」の開催日。毎年慌ただしく充実した１日となる。研修会の挨拶で私は「毎年元気で会えることが何よりも良いことである」とお話しさせていただいた。これからも、新年に皆さんとお会いしたいものである。

２００８年を迎え、今までの私が代表を務めている関東エリアを採点する。私６０点、役員９０点、会員の先生方を１００点としたい。私自身、多くの方からご指摘を受け、ご指導ご助言を頂いたことを皆さんに感謝したい。思慮、配慮不足、計画性のなさを反省改善し、今後に生かしていきたいと考える。

関東の定例会を支える鈴木代表・監物広報部長

定例会にて　左から
長江先生　川久保先生　谷村理事長

関東の活動は会員の皆さんに支えられている。役員の先生方の働きで各行事は予定通りに行われ、何らかの成果を上げていると思っている。特に関東の３大行事となっている、パソコン教育推進協会と合同の「ＩＴ研修」、情報部桂馬先生の「私学情報交換会」、総務部渡辺先生を中心とした「ニューイヤーパーティ」は大盛況であると思う。昨年は訪問研修のＳＴＥＰ、企画部の発足と菅谷先生の活躍、教務部加藤先生の年間を通した研修会、センター広報部と連動した宝田先生と監物先生の働きがあった。研修部大住先生にはご苦労をかけているが彼の存在は大きい。そして頼りにしているのが会計部の竹内先生である。竹内先生抜きには関東の活動は考えられない。もちろん、渉外部の佐藤先生が業界を太いパイプで結んでくれていることで、我々の活動がある。

しかし、毎年退会される方がいることも忘れてはいけない。「なくなっていい塾はない」という原則をしっかりと踏まえて、会員塾に元気を出して頂くために何ができるのか、考えて行動しなければと思う。エリアの活動の目的は、会員塾の存続にあると考える。そのためには、共に活動することが必要である。活動とは、情報・研修・懇親。情報を収集、伝達し共有すること。又、自塾だけ伸びればいいと考えではなく、開いた研修をすることが、他塾を高め、その結果自塾も高まる。「生き残る」、「勝ち残る」と考えるのではなく、「共に伸びる」と考えることが重要であり、そこに活路がある。そしてそれが子供達の幸せにつながると信じている。さらに、元気の源はワイワイガヤガヤとできる仲間達がそこにいることである。

退会者される方いる一方、入会者により毎年会員数が増えています。「人が集まるところには何かある（良いところ）」を励みにやっていきたい。

定例会にて　左から
大住関東研修部長　安藤顧問　竹内関東会計

定例会にて　左から
菅谷孝臣・中村庸彦・中村直人・山口容子各先生

渉　外　部　報　告

渉外部長　佐藤勇治

１、第33回　NPO 塾全協全国研修大会 in 沖縄
「沖縄から日本の教育を考える ～ 甦れ日本の子どもたち」

今回は私塾ネット渉外部長として、平成19年11月3日(祝)沖縄県那覇市のロワジールホテル那覇で開催されました表記の研修大会に出席致しました。

11月2日(金)12：00羽田発のＪＡＬ0917便で一路、那覇空港へ。約3時間の空の旅でした。空港からは、モノレールで牧志駅へ直行。午後4時に駅前の南西観光ホテルに到着しました。フロントに行くと、東京の自宅と田中敏勝先生のお二人から電話が入っているから連絡するように言われ、早速、チェックインして東京と大宮に電話を入れると用件は、文部科学省からNPO法人 全国教育ボランティアの会の事業の件で、至急確認したいことがあると言う事でした。

以前、私塾ネット事務局長の仲野十和田先生から「佐藤先生はどうして携帯を持たないのですか。それなのに大抵すぐに連絡が取れますね。」と言われた事があります。また、他の多くの先生から「携帯の番号を教えて下さい。」と言われる事がよくあります。その都度「携帯はありません。自宅に電話を入れてくれれば、大抵その日のうちに連絡が取れますよ。」と言っています。今回の文部科学省の用件も、何の支障もありませんでした。携帯に振り回されるより、フリーで仕事をしながら、電話の用件は、まとめて処理するのが長年の習慣になっています。よろしくお願い致します。

さて、当日の研修大会のプログラムは、開会式（15：00－15：15）、趣旨説明（15：15－15：30）のあと、第一部基調講演（15：30－17：00）、第二部パネルディスカッション（17：15－18：15）、閉会式（18：15－19：00）、懇親会（19：15－21：15）で幕を閉じました。

研修大会の詳しい報告は、業界紙（私塾界、塾ジャーナル）のほか1月14日(祝)に市ヶ谷のアルカディアで開催された「塾団体合同新年会」で配布されたNPO 塾全協広報誌でも取り上げられていますので、私が特に感銘を受けた2点についてのみお話したいと思います。

第一部　基調講演
天川恵美子氏　NHK国際放送局ディレクター
「インドの教育が日本に問いかけるもの」
～NHKスペシャル「インドの衝撃」を取材して

第二部　パネルディスカッション
コーディネーター　NPO 塾全協西日本ブロック研修局長　中村　勲氏
パネリスト灘中学・高等学校　教頭　　倉石　寛氏
NHK国際放送局　ディレクター　　天川恵美子氏
東京大学理科一類　2回生（沖縄出身）山田康智氏
NPO 塾全協　会長　後田多純寿氏

（その１）天川恵美子氏のお話「NHKスペシャル取材班・編著インドの衝撃」より引用

天川氏の基調講演は、映像とご自身の取材体験をまじえ、インドが世界のIT産業がアメリカを超え、リードし始めていること、その頭脳パワーはインド工科大学に象徴されるエリート教育にあると言われました。基調講演の核心部分は、2007年10月30日、文藝春秋社から発刊された「インドの衝撃」に詳述されていますので、是非ご一読をお勧めしたい。ここでは、その中の一部分のみを抜粋してみます。

「インドには、理工系の大学や理工系学部で学ぶ学生の人数が非常に多い。こうした大学や学部を卒業した学生の人数は、2006年には44万人、2007年は50万人で、毎年4～5万人ずつ増加している。その中でも、最高峰が、インド工科大学、通称IITである。毎年5千人の定員に対し、受験者は30万人にのぼる。競争率はなんと60倍である。

アメリカの名門ハーバード大学がおよそ11倍、マサチューセッツ工科大学（MIT）が8倍、東京大学は3倍というから、倍率で見ると、間違いなく世界最難関の大学である。」

研修大会で基調講演をなさる天川恵美子氏

（その２）倉石　寛氏（灘中学・高等学校教頭）のお話

「本校は1学年4クラス。全校生徒が1100人ほどの小規模校で、現場の教員が中心となって学校をつくってきました。カリキュラムも昭和20～30年代に教員が作成しました。今も大筋では変わっていません。例えば、中学1年は具体から抽象に移る時期なので、理科では実験を多く取り入れ、化学式まで教え

ています。また、本校では担当教師団チームを組み、6年間同じ先生が教えています。

「ゆとり教育」の名の下、1977年（昭和52年）、1989年（昭和64年）、1998年（平成10年）と３回に亘って指導要領が改定され、主要教科の授業時数と内容が半分近くまで削減された公立学校は、先生の定期的移動もある。それに比べ、昭和20～30年代のカリキュラムを堅持し、中学、高校の6年間を一人の先生が持ち上がって、同じ生徒を教えていると言う灘中学高等学校。どちらが、子どもたちのために良かったのだろうか。結果を見れば、インドの例を見るまでもなく、歴然としているのではないだろうか。

２、平成19年度　第5回（茨城県筑西市）地域で行う「子育て事業」支援フォーラム、「生きいきワクワク体験・親子の集い」NPO法人 全国教育ボランティアの会主催

12月5日(水)の朝刊各紙は、国際的な学習到達度調査（PISA）の結果を報道しました。朝日新聞では「3回目となる今回は57カ国・地域が参加し、知識・技能を実生活に応用できるかどうかを主眼に合計40万人、国内は約6千人の高校1年生が受けた。日本は、「読解力」で前回（03年）14位から15位、「数学的リテラシー（応用力）」では、6位から10位に順位を落とした。」と報じ「応用力、読解力も日本続落」との見出しを掲載しました。さらに2面「時時刻刻」と17面にも特集を組み、OECDの15歳学力調査の結果を大々的に取り上げています。

これを受けて、翌12月6日(木)の日本テレビ（4チャンネル）の朝の「ズームインSuper」では、「ストップ理科ばなれ」として特集を組み、毎日新聞朝刊のPISAの結果報道を大きく取り上げ、その上で、学研、大手塾などの理科実験塾の現状とロボット製作、化学実験の現場を放映し、理科実験塾にはキャンセル待ちも出ていると報道しました。PISAのニュースは、日本テレビ側では事前に掌握しており、12月3日(月)午後、日本テレビの「ズームインSUPER」の担当者3人が、ビデオカメラ2台を持ち込んで、私の所に「理科ばなれ」の原因と理科実験塾の繁盛について、NPO法人 全国教育ボランティアの会事務局長としてのコメントを求めて、取材に来られました。撮影は、午後4時から約1時間、調布学園の教室で行われ、12月6日(木)午前8時40分からの報道特集「ストップ理科ばなれ」で放映されました。

2007年12月06日(木)日本ﾃﾚﾋﾞ「ｽﾞｰﾑｲﾝSuper」放映「理科実験塾のコメンターとして出演　調布学園 佐藤学園長」

さて、表記の「親子の集い」は、12月8日(土)、茨城県筑西市五所小学校に、文部科学省高等教育局私学行政課法規係　椎名可愛係長、筑西市五所公民館大和田　渉館長をご来賓に迎え、五所小学校　堤光子校長、大山　圭教頭、PTFの役員、子どもたちと保護者など約70名が参加して開催されました。午前中のフォーラムでは、一橋大学名誉教授　中嶋浩一先生による基調講演「日本の理科教育」が行われました。講演では、12月6日(木)日本テレビの「ズームインSuper」で放映された「ストップ理科ばなれ」のビデオを放映しながら、科学教育の問題点が指摘されていました。また、午後からの「生きいきワクワク体験・親子の集い」では、「こんにゃく作り」「魔方陣」「天才カメ君レース」「天文教室」と盛り沢山の実験とお話があり、大好評でした。

（１）第84回　全日本学習塾連絡会議

①日　時：12月2日(日)　16：30－17：45
②会　場：ホテルグランドパレス
③内　容：「塾の日」功学者選考部会説明

（２）東京私塾協同組合　塾団体合同忘年会

①日　時：12月2日(日)　18：00－20：00
②会　場：ホテルグランドパレス
③内　容：私学、企業、学習塾関係者など約250名出席

（３）全国学習塾協同組合　塾教育総合展

①日　時：平成20年1月14日(祝)　11：00－15：30
②会　場：東京国際フォーラムB棟 7Fホール
③内　容：教材教具、電子機材、IT教育

（４）NPO 塾全協　塾団体合同新年会

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田

１月１４日（月・祝）に東京国際フォーラムで教育総合展（教材教具展・AJC主催）が行われました。初めての会場でしたが、とてもいい雰囲気で、来場者数も昨年より多かったようです。別室で私塾ネットの研修会場もとっていただき、菅谷友豊香先生より「風水を取り入れた教室作り」、碇先生より「数学（三平方・相似）」について講義をしていただきました。簡潔にお伝えいたしますと、「塾はきれいにせよ。先生はしっかり勉強しなさい。」というメッセージだったと思います。

さて、その後会場はアルカディア市谷（2008年私塾ネットの全国研修大会開催予定地）に移り、塾団体合同忘年会（NPO塾全協主催）が行われました。ご挨拶の中で進学塾の授業を土曜・放課後に取り入れることにした、杉並区の和田中学（藤原和博校長）のことが何人かの方から批判的に取り上げられていました。実は、昨年和田中学を見学する機会があったのですが、すばらしい取り組みも多々あります。もっとも印象に残っていることは、「私は、先生には生徒のために授業に専念してほしい。だから、保護者や地域の方にできることは手伝っていただく」という発想から地域を巻き込んだ学校作りを実践していること。また、参加した「よのなか科」の授業では「目の前で自殺している友達に、何と言って声を掛けるか？」ということから、「命」について考えさせるという面白い内容でした。ドテラ（土曜寺小屋）では、教員志望の学生（有給）に勉強がわからない生徒の補習をさせているなど、様々な取り組みをされています。ただし、今回の取り組みは（義務教育の）公教育地域間格差を広げることになり、また、月謝もいささか中途半端な設定で疑問が残ります。それと、「あの熱意ある優秀な学生たちに、良い教材とちょっとした指導法を伝えれば、高校受験は可能なのになー」と思った次第です。

閑話休題

理事長　谷村志厚

今号２ページと８ページで報告されている四国高知での研修会と青森八戸でのイベントに出席して、何かと感慨深い出会いを経験した。１０月末の「四国塾長会議」は、四国エリア湯口代表の執念により実現できた行事であり、湯口さんのカリスマをもって完結できたイベントであった。私自身が四国愛媛の出身だけに、四国四県の塾人が一同に会する研修会には心躍るものがあった。本州の方々は四国という地勢から、まとまりのある四県の姿を想像しがちだ。ところが、この四県みごとに県民性がちがっており、不仲とは言わないまでも決してまとまりのある関係とはいえないのが実情である。そんなことで今回のイベントは貴重な企画であった。これを機会に四国の皆さん方の交流が活発となり、加盟各塾の活性化の一助になれば幸だ◆さて、久しぶりの高知であったので、帰京までの半日を市内観光で過ごさせていただいた。同行者はラピス鎌ケ谷の田中さん。彼は研修会前日に香川に入り湯口塾を見学、さらにその日高知にもう一泊して四国の晩秋を堪能するという。これが田中さん流の忙中閑の過ごし方で、なかなか真似のできない、大胆な時間の使い方である。天高く秋晴の一日、高知城の天守閣から市内を眺望し、桂浜で龍馬像を見上げ、浦戸湾を望む料理屋の座敷に上がりこみ、昼酒をあおった。酒の勢いを借りて論談のひととき、なにやら幕末の志士にでもなった気分を味わさせていただいた。

新走(あらばしり)五臓六腑を駆け巡り

１２月１日、初めて八戸を訪問した。翌２日に市内で開催される私塾ネット後援行事「進学情報展in八戸」の応援のためである。この行事は社団の主催だが、エリア東北の代表畑山先生が孤軍奮闘で運営している大イベントである。この日は毎年、東京での塾団体合同忘年会の開催日に重なるため、訪問の機会を失っていたのだが、東京は鈴木代表にお任せし、念願かなっての八戸である◆目的地にはすでに碇先生が、社団副会長のお立場で先着しておられた。同行の石川さんともども、まずは畑山さんの志学塾を表敬訪問した。話には聞いていたのだが、志学塾は不思議な塾空間であった。究極の自学自習塾の形態である。畑山さんからノウハウや仕掛けを説明していただいたのだが、いまひとつ納得がいかない。結局この魅力的な「塾の形」は、畑山さんのキャラクターと能力なしでは成り立たぬものだと合点した。それにしても全国には魅力的で面白い塾があるものである。各地の私塾ネットの先生方の塾を訪問するたびに、その地域に根ざし成長した「塾の形」に感心することしきりである。こんな経験ができることが全国組織の塾団体の真骨頂であろう◆さて、本番前夜に八戸を訪問したのには、志学塾見学の他にもうひとつの目的があった。八戸の冬の夜長、前夜祭が盛り上がりますよとの悪魔のささやきである。上戸にはどうにも断わりきれぬ誘いである。畑山さんのご案内で、塾の仲間、私学の先生方、企業の方々と盃を傾けた「みろく横丁屋台村」は、地方都市ならではの趣であった。さすがは三陸の玄関先、旨い魚と酒と人情にほだされてのくつろぎ気分、八戸の夜はしんしんと更けたのであった。

冬ざるる八戸の夜やせんべい汁

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校　TEL03-3376-2244
〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
村山　ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生

江戸川学園取手中学高等学校　TEL0297-74-8771
〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
竹澤　賢司先生

十文字中学高等学校　TEL03-3918-0511
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
卯木　幸男先生

東洋高等学校　TEL03-3291-3824
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
野間　一夫先生

桜丘中学高等学校　TEL03-3910-6161
〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
品田　健先生

聖徳大学附属中高等学校　TEL047-392-8111
〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
川並　芳純先生

麹町学園女子中高等学校　TEL03-3263-3014
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
伊藤　暁先生

春日部共栄中学　TEL048-737-7611
〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
宇野　禎弘先生

大成高等学校　TEL0422-43-3196
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
森　保先生

東京学園高等学校　TEL03-3711-6641
〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
須藤　勉先生

東京立正中学高等学校　TEL03-3312-1111
〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
藤井　教戒先生

八雲学園中学高等学校　TEL03-3717-1196
〒152-0023 東京都目黒区八雲　2-14-1
横山　孝治先生

関東第一高等学校　TEL03-3653-1541
〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
副田　康孝先生

武蔵野中学高等学校　TEL03-3910-0151
〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
福澤　清一郎先生

神田女学園中高等学校　TEL03-3291-2447
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
齋藤　元治先生

和洋国府台女子中学高等学校　TEL047-371-1120
〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
太田　陽太郎先生

東京文化中学高等学校　TEL03-3381-0196
〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
上前　善勝先生

英数学館中学高等学校　TEL084-941-4115
〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
和田　淳先生

文京学院大学女子中学高等学校　TEL03-3946-5301
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
水上　茂先生

京北学園中学高等学校　TEL03-3941-6253
〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
実方　隆志先生

大森学園高等学校　TEL03-3762-7336
〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
河嶋　正先生

東京成徳大学中学高等学校　TEL03-3911-2786
〒114-8526　東京都北区豊島8-26-9
増澤　文徳先生

日本工業大学附属中学　TEL03-3467-2130
日本工業大学附属東京工業高等学校
〒153-8508　東京都目黒区駒場1-35-32
河村　文夫先生

青稜中学高等学校　TEL03-3782-1502
〒142-8550　東京都品川区二葉1-6-6
多々良　昭典先生

東京女子学園　TEL03-3451-6523
〒108-0014　東京都港区芝4-1-30
実吉　幹夫先生

安田学園中学高等学校　TEL03-3624-2666
〒130-8615　東京都墨田区横綱2-2-25
福谷　隆芳先生

多摩大学目黒中学高等学校　TEL03-3714-2661
〒153-0064　東京都目黒区下目黒4-10-24
福本　明男先生

駒込中学高等学校　TEL03-3828-4141
〒113-0022　東京都文京区千駄木5-6-25
河合　孝允先生

愛国中学高等学校　TEL03-3658-4111
〒133-8585　東京都江戸川区西小岩5-7-1
高橋　英夫先生

日本橋女学館中学高等学校　TEL03-3662-2507
〒103-8384　東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6
羽田野　敦先生

株式会社パイロットコーポレーション　TEL03-3538-3782
〒104-8304　東京都中央区京橋2-6-21
辻　豊様

株式会社教育企画ティーファイブ　TEL03-5479-7061
〒140-0001　品川区北品川1-22-17　ニックハイム104号
山田　孝幸様

株式会社創開コミュニティー　TEL04-7164-6511
〒277-0005　千葉県柏市柏3-4-25　小澤ビル
小林　和光様

㈱アズサコーポレーション　TEL03-3477-2011
〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町29-31
石野　ゆかり様

ギガビジョン株式会社　TEL03-3237-5861
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-4-5
櫻井　淳二様